

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第36号 2017年11月13日発行

+++++

長野県善光寺の甘酒と戸隠のそばを目当てに小旅行しました（写真）。善光寺門前町は新旧のセンスが混じり合っていて、軽井沢の影響か、藤屋旅館レストランなどとても良い雰囲気でした。戸隠神社はみぞれで、もうすぐそこに冬が来ていました。

小菅の雑穀見本園は収穫して、東京でのワークショップに使っていただきます。天候不順、雨ばかりで、他の作目品種は不稔でしたが、借金なし大豆がたくさん収穫できました。これで借金せずに味噌ができます。ほかの畑の別のダイズ品種は不稔、ご近所の方も大豆は初めて不作だったようです。イノシシに食害され壊滅したサツマイモに同情され、秋子さんから立派な薯と大根を頂きました。エンドウ4品種、青森6片ニンニク、南部小麦を播種しました。これで農閑期に入り、春まで博物館再興に努めます。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は「ナマステ」でお知らせしています。地方創生と大騒ぎしていても、「辺境」の地道な市民活動にはほとんど関心がもたれませんので、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人に転送伝達していただけるとうれしいです。

○報告

1. FAO 世界農業遺産の関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』では、雑穀街道普及会の賛同者を募っています。賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。FAO 世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いします。下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」で閲覧していただけます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

2. 植物と人々の博物館の復興、農閑期になりましたので、新「植物地人々の博物館」の書籍を書架に並べています。また、来年にむけて、展示「多様な生業」を企画中です。

3. ミレット藤野の脱穀実習は雨続きで中止でしたが、純子さんと宮本さんに藤野の旧佐野川村地域を案内していただきました。40年ほど前に調査したところです。カナダ人の染色家ブライアン氏、イタリア帰りの工芸家・デザイナー夫妻、草刈りボランティアの方々を紹介していただきました。それぞれに住みながら、広い交流をもっておいでで、センスの豊かさに感心しました。宮本さんの茶畑も見せていただきました。天気だったら、富士山が見えるそうです。

4. 芋煮会は小菅産有機無農薬のサトイモを使っていただきました。11月12日（日）に武蔵野公園で、今野家ほか10余名の参加、本格山形風で楽しく行いました。

○予定

1. 作業予定日：11月13日（月）、19日（日）、24日（金）、12月2日（土）、12月8日（金）ほかの予定です。

移動先の植物と人々の博物館では、順次、図書・資料や民具の展示を再開しています。作業にご協力いただきたく、よろしくお願ひします。ご協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、日程調整します。

kibi20kijin@yahoo.co.jp

2. ミレット藤野ワークショップ：11月19日（日）上野原市西原で水車搗精、12月3日（日）藤野でまとめの会。

3. 「憲法に環境原則を追加する提案」についての研究会を認定 NPO 法人環境文明 21（憲法部会）が再開しました。次回は11月29日（水）午後6時から、大崎で行います。ご興味があれば詳細をお知らせします。現在の提案書（憲法前文と第三章環境を加筆）は次のホームページで読めます。 <http://www.kanbun.org/2017/170824teigen/170824teigen.html>

4. 提案

1) 第40回環境学習セミナー（案）

話題：雑穀街道における家族農業、自給農耕、ファーマーズマーケットの楽しみと食料安全保障について、2・3人の講師をお願いして話し合いたいと考えます。日時：未定。場所：上野原市。都市農業や家族農業の文献を集めています。

2) 日本村塾ゼミ（読書会継続）

農閑期になりましたので希望者があれば開催します。日時や場所についてもご意見、ご要望をお知らせください。

民族植物学ゼミ第5回 日時・場所：未定。

①農耕文化について学び直したいと思います。

テキスト；中尾佐助 1966、『栽培植物と農耕の起源』、岩波新書（重版あり）、再読したいロングセラーです。参考図書；同左（1967）、農業起原論、森下正明・吉良竜夫編『自然—生態学的研究』、中央公論社、所収。佐々木高明 2013、『日本文化の源流を探る』、海青社、大津。

②自然と感じ合う農耕の楽しさを語り合いたいと思います。民族植物学ゼミ第4回で出た話題を深めます。テキスト；レイチェル・

カールソン (1956)、上遠恵子訳 (1996) 『センス・オブ・ワンダー』、新潮社。参考図書；同左 (1962)、青樹築一訳 (1974) 『沈黙の春』、新潮社。

扶桑こくゼミ第3回 日時・場所：未定。

日本村塾で学びたい方があれば、ゼミもしたいです。

①明治維新から150年の日本の在り方を学び、考え直したいと思います。

テキスト；羽仁五郎 (1956) 『明治維新—現代日本の起源』、岩波書店 (絶版中古有)。参考図書；原田伊織 (2015) 『明治維新という過ち』、毎日ワズ；西鋭夫 (2016) 『新説・明治維新』、ダイレクト出版；西野辰吉 (1972) 『秩父困民党』、講談社；森田康夫 (1993) 『大塩平八郎の時代—洗心洞門人の軌跡』、校倉書房。その他。

②柳田民俗学「稲作単一民族説」の瑕疵や関連して新旧憲法の比較なども話し合ってみたいです。市民が憲法について考え、提案すべきだと思います。色川大吉 (2015) 『五日市憲法草案とその起草者たち』、日本経済評論社。

5. 民族植物学第11号は宮本さんに編集をお願いします。主な内容は、八丈島における「タコウナ」の食習慣、九州・沖縄の雑穀栽培、書評、安田・環境文明論、憲法に環境原則、環境学習セミナーの報告、などです。

第12号の原稿締め切りは2018年7月とします。関東地方の雑穀栽培など準備しますが、ご寄稿を歓迎します。バックナンバーは第7号～第10号まで少しあり、希望者に差し上げます。第1号から第10号まで、すべての記事はホームページで読めます。

6. 『雑穀のインド亜大陸』は民族について学びながら、ネパール・ブータン、パキスタンおよびインド各州について、個人の現地調査の体験をまじえながら、自由に書いています。第2章インド亜大陸の多彩な自然と文化を近日中に未定稿として公開します。順次必要に応じて改訂していきます。同じく、『**日本雑穀のむら**』は第7章九州・沖縄の雑穀栽培を公開、『**環境学習原論**』はまだ目次構成だけですが、書き始めています。ともに、下記の個人ホームページから引用してくださる場合は、「木俣美樹男 (2017 未定稿)」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会 (東京都日野市)：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

ミューゼス研究会／トランジション小菅 (山梨県小菅村)：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館 (山梨県小菅村)：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男 (東京)、西村俊 (石川)、藤盛礼恵 (千葉) ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村) npo-inch@wine.plala.or.jp

公式HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

個人HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

写真

八幡屋磯五郎の店舗前のトウガラシ、長野善光寺の門前町



戸隠神社中社の御神木

